



Osaka University  
Center for Student Success  
Research and Practice



大阪大学  
OSAKA UNIVERSITY

OU MASTER PLAN  
2027  
生きがいを育む社会の創造

# 現代の大学入学者選抜を取り巻く課題の 全体像とCBTの活用可能性 ～少子化、多面的・総合的評価、CBT～

## 2024年8月21日

川嶋 太津夫

大阪大学スチューデント・ライフサイクルサポートセンター

<https://slics.osaka-u.ac.jp>



# アウトライン

- ✓日本の大学を取り巻く環境：急速な少子化
- ✓大学入学者選抜の現状
- ✓大学入試の方向性：キーワードは「少子化」と「多様性」
- ✓多面的・総合的評価の特徴：志願者にも大学にもメリットのある選考方法
- ✓多面的・総合的評価の課題：課題の解決はあまり進んでいない
- ✓多面的・総合的評価とCBT：検討の経緯、現状、課題、可能性
- ✓まとめ

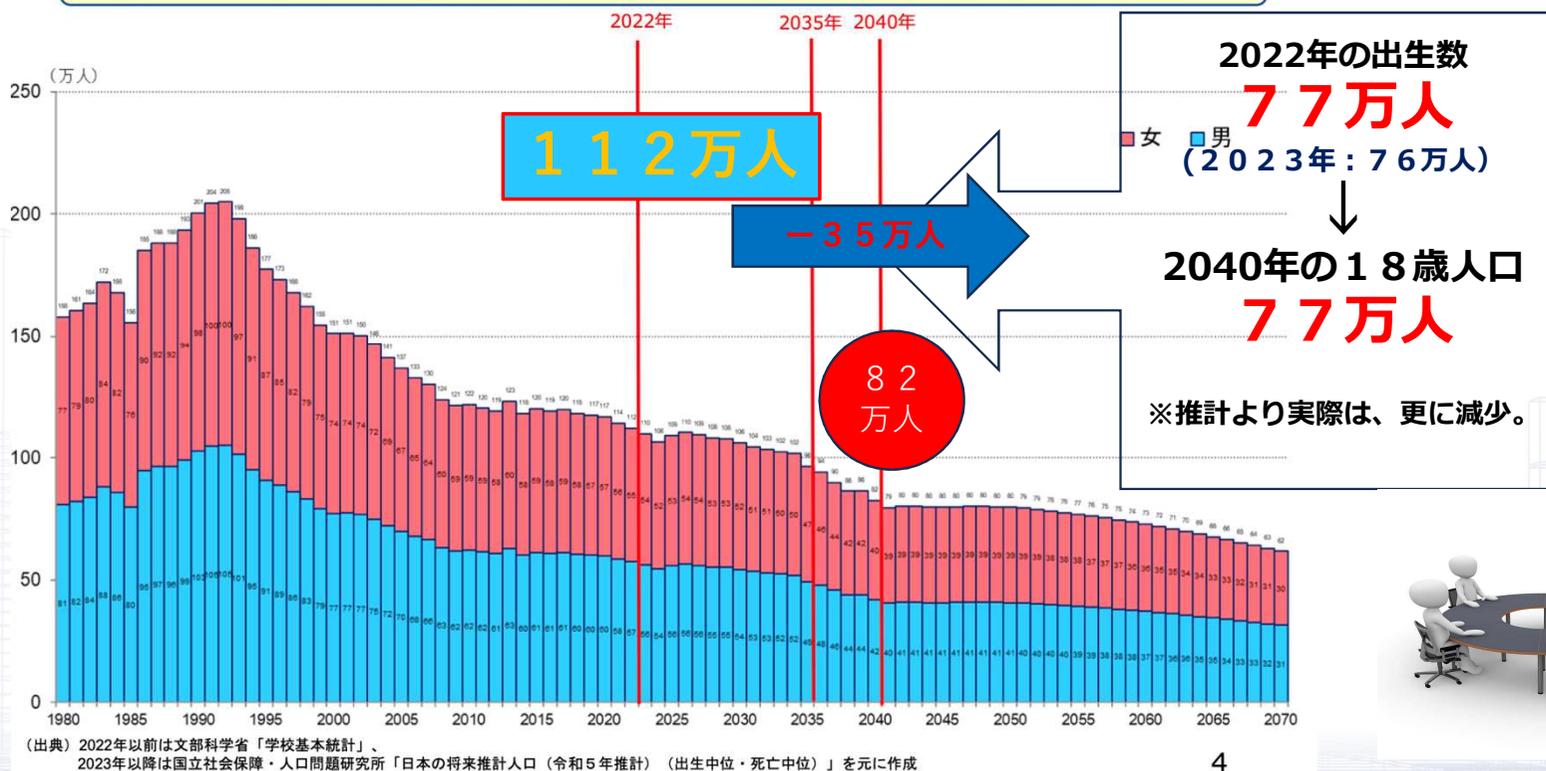
# 日本の大学を取り巻く環境

## ～急速な少子化～

# 入学者の下り坂 “Enrollment Downhill”

## 18歳人口(男女別)の将来推計

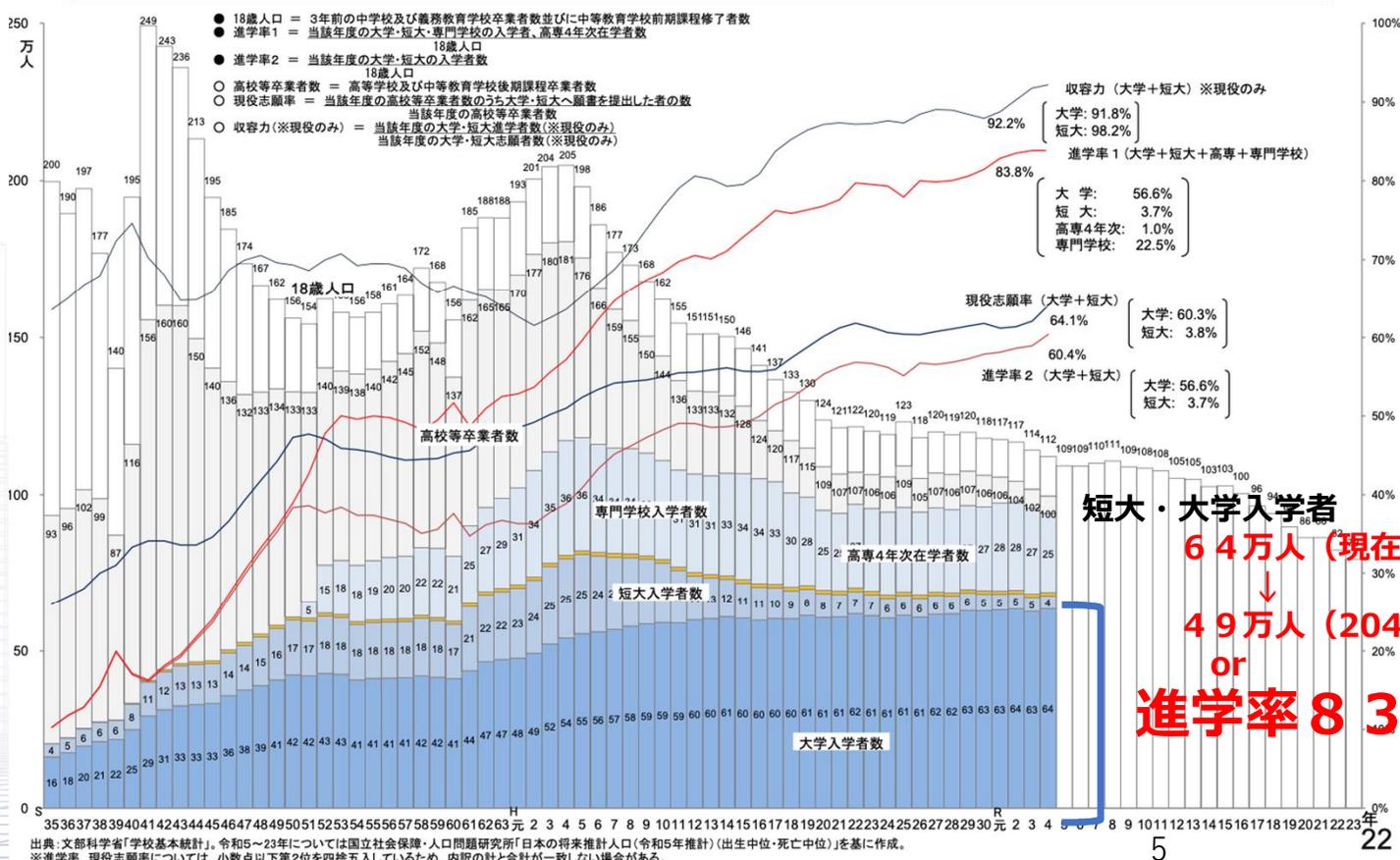
- 我が国の18歳人口の推移を見ると、2005年には約137万人であったものが、現在は約112万人まで減少している。
- 今後、2035年には初めて100万人を割って約96万人となり、さらに2040年には約82万人にまで減少するという推計もある。



救いは当面変化がなだらか  
→対策が可能

## 18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移

18歳人口は、ピークであった昭和41年には、約249万人であったが、令和4年には112万人にまで減少。令和23年には約79万人になることが予測されている。高等教育機関への進学率は概ね上昇を続け、令和4年には大学のみで56.6%、全体で83.8%となっている。



\* 高等教育の在り方に関する特別部会第1回 参考資料1 参考データ集

2033年までに40万人  
(教育未来創造会議)

## 2040年～2050年の進学率・進学者数推計結果

- 急速な人口減少に伴い、大学進学率の伸長を加味したとしても、**2040年代の各都道府県の大学進学者数の合計は40万人台。**
- 外国人留学生の数を加えても、現在の大学の入学定員の規模が維持された場合には、定員充足率は80%を割る年も見られた。**
- 外国人留学生受入れ推進により、外国人留学生数がOECD並みになったとしても定員充足率は80%を超える程度、G7並みになったとしても、**現在の大学の入学定員の総数(令和4年度 626,532人)と約10万人のギャップがある。**

【外国人留学生比率が現状のまま(3.07%)であった場合】

年	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050
18歳人口	823,382	793,715	800,949	801,455	797,757	797,466	799,003	800,105	800,267	799,364	797,223
進学率	59.61%	59.68%	59.75%	59.82%	59.88%	59.94%	60.00%	60.06%	60.12%	60.17%	60.22%
(a) 進学者数	490,781	473,671	478,559	479,415	477,722	478,034	479,436	480,570	481,105	480,972	480,092
(b) 留学生等	17,096	17,096	17,096	17,096	17,096	17,096	17,096	17,096	17,096	17,096	17,096
(c) その他	2,233	2,155	2,178	2,182	2,174	2,175	2,182	2,187	2,189	2,189	2,185
大学進学者数 (a)+(b)+(c)	510,110	492,922	497,833	498,693	496,991	497,305	498,714	499,852	500,390	500,256	499,372
定員充足率	81.81%	79.05%	79.84%	79.98%	79.71%	79.76%	79.98%	80.17%	80.25%	80.23%	80.09%

【外国人留学生比率がOECD平均(4.77%)となった場合】

年	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050
18歳人口	823,382	793,715	800,949	801,455	797,757	797,466	799,003	800,105	800,267	799,364	797,223
(a) 進学者数	490,781	473,671	478,559	479,415	477,722	478,034	479,436	480,570	481,105	480,972	480,092
(b) 留学生等	26,598	26,598	26,598	26,598	26,598	26,598	26,598	26,598	26,598	26,598	26,598
(c) その他	2,233	2,155	2,178	2,182	2,174	2,175	2,182	2,187	2,189	2,189	2,185
大学進学者数 (a)+(b)+(c)	519,612	502,424	507,335	508,195	506,494	506,808	508,216	509,355	509,893	509,759	508,875
定員充足率	83.34%	80.58%	81.37%	81.50%	81.23%	81.28%	81.51%	81.69%	81.78%	81.75%	81.61%

【外国人留学生比率がG7平均(8.08%)となった場合】

年	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050
18歳人口	823,382	793,715	800,949	801,455	797,757	797,466	799,003	800,105	800,267	799,364	797,223
(a) 進学者数	490,781	473,671	478,559	479,415	477,722	478,034	479,436	480,570	481,105	480,972	480,092
(b) 留学生等	45,084	45,084	45,084	45,084	45,084	45,084	45,084	45,084	45,084	45,084	45,084
(c) その他	2,233	2,155	2,178	2,182	2,174	2,175	2,182	2,187	2,189	2,189	2,185
大学進学者数 (a)+(b)+(c)	538,098	520,910	525,821	526,681	524,980	525,293	526,702	527,841	528,378	528,244	527,361
定員充足率	86.30%	83.54%	84.33%	84.47%	84.20%	84.25%	84.47%	84.65%	84.74%	84.72%	84.58%

現在の大学入学定員（約64万）>> 2040年の志願者  
-15万



大学の再編・統合・閉校



国力低下



大学全入時代



選抜から相互選択へ

# 大学入学者選抜の現状

令和5年度文部科学省委託調査

「大学入学者の実態の把握及び分析等に関する調査研究 調査報告書」

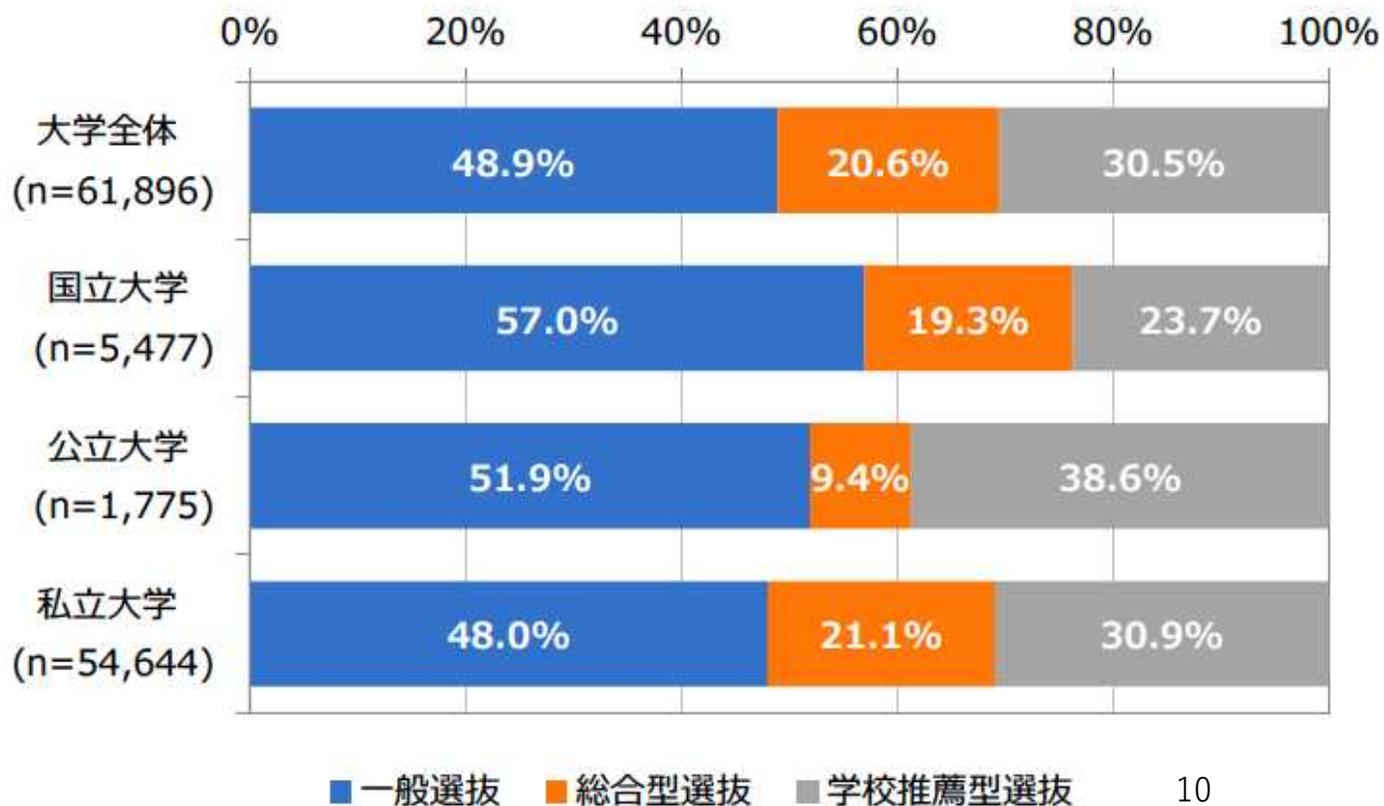
リベリタス・コンサルティング

参照

- ✓一般選抜区分は半分以下（特別選抜を除く）
- ✓一般選抜**減少**、総合・学校推薦**増加**
- ✓入学者数：一般選抜 < 総合・学校推薦（**私立6割**）
- ✓国立大学の第3期AP=3割  
（東北→全てをAO、筑波→2次で学力試験廃止、小論文+面接）

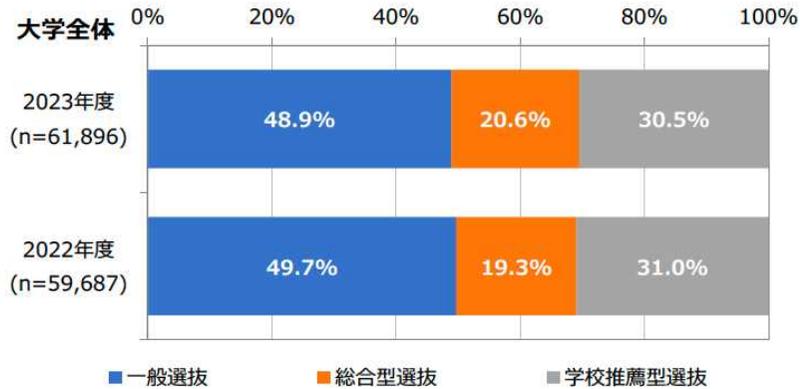
# 一般選抜区分は半分以下（特別選抜を除く）

図表 3-2 選抜方法（国公私・選抜区分数別）

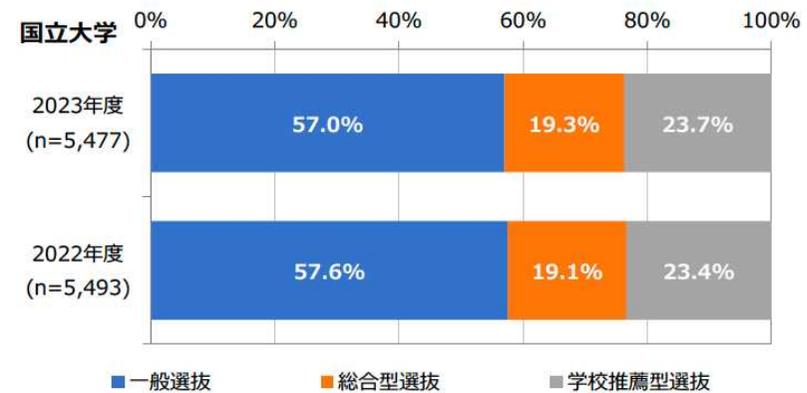


# 一般選抜減少、総合・学校推薦増加

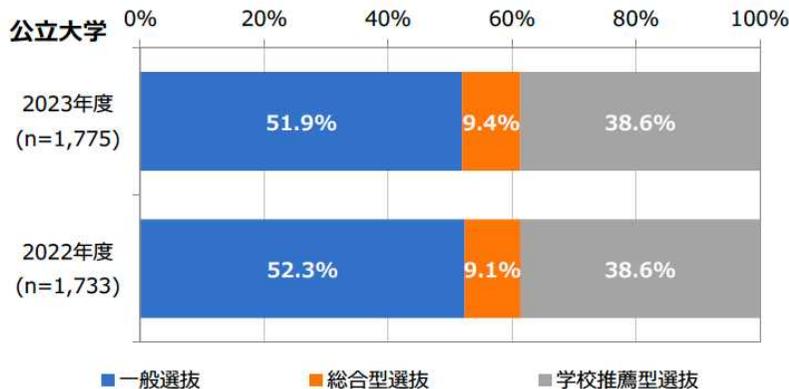
図表 3-3 【前回調査との比較】選抜方法（大学全体・選抜区分別）



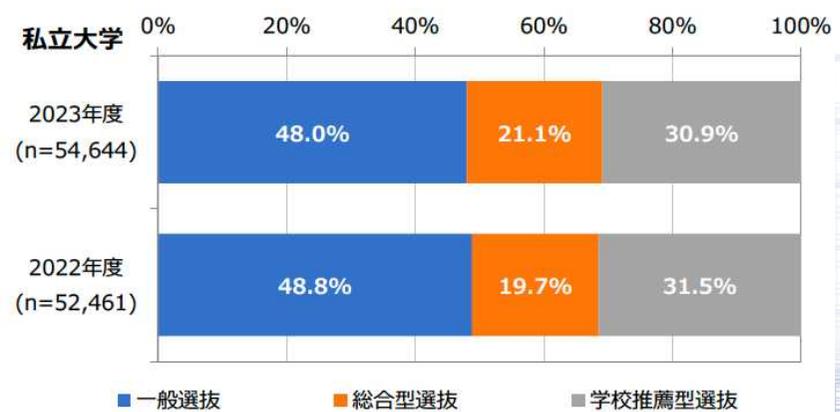
図表 3-4 【前回調査との比較】選抜方法（国立大学・選抜区分別）



図表 3-5 【前回調査との比較】選抜方法（公立大学・選抜区分別）

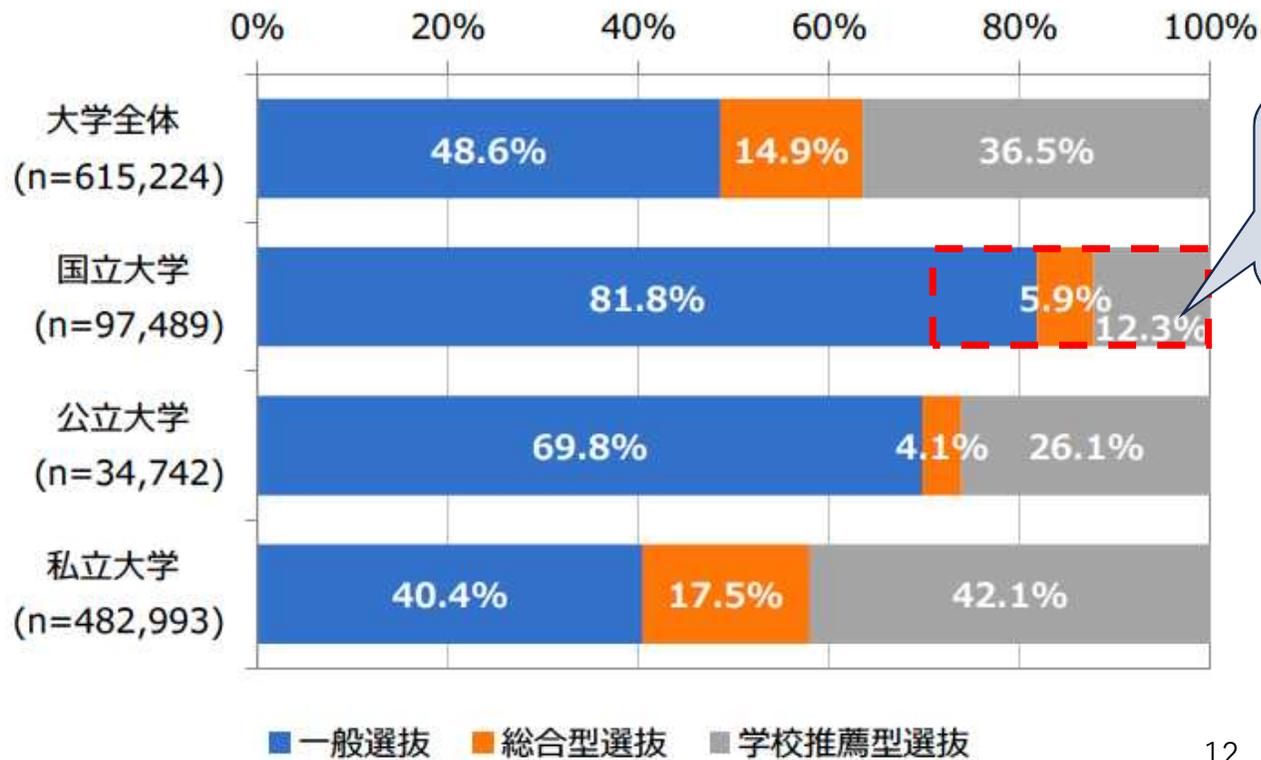


図表 3-6 【前回調査との比較】選抜方法（私立大学・選抜区分別）



# 入学者数：一般選抜 < 総合・学校推薦

図表 3-9 選抜方法（国公私・入学者数別）



東北大学：将来全て総合型選抜に  
筑波大学：将来2次試験は面接と小論文で

# 大学入試の方向性

～キーワードは「少子化」と「多様性」～

## キーワード：「少子化」 + 「多様性」

**少子化**の進行に伴い、特に私立大学においては、大学経営の観点から**学生の早期確保**のために、いわゆる「年内入試（総合型・学校推薦型）」の加速が予想される。

加えて、**イノベーション**の前提となる学生集団の**多様性**確保の観点からも、学力のみによる「一元的」尺度では見落されてきた学生の発掘が可能な総合型・学校推薦型による入学者選考が増加するであろう。

ちなみに、東京大学の2022年度の東大合格者数トップ5に男子校が4校、トップ10には6校、トップ20では10校、全合格者の25.4%を占めている。  
東大生の平均的なプロフィールは大都市圏、父親は管理職・専門職で高収入、母親は専業主婦という近代的なホワイトカラーの家庭出身の「男子」↔**女性は2割**  
(矢口祐人『なぜ東大は男だらけなのか』集英社新書2024より)

# 2021年度入試からの個別入試 (全ての選抜方式で多面的・総合的評価を)

## 総合型選抜

- ① **大学が実施する学力評価** (小論文、プレゼン、口頭試問、実技、学力試験、資格・検定試験など) または「大学入学共通テスト」の活用
- ② 志願者提出書類 (志望理由書、活動報告書など)

## 学校推薦型選抜

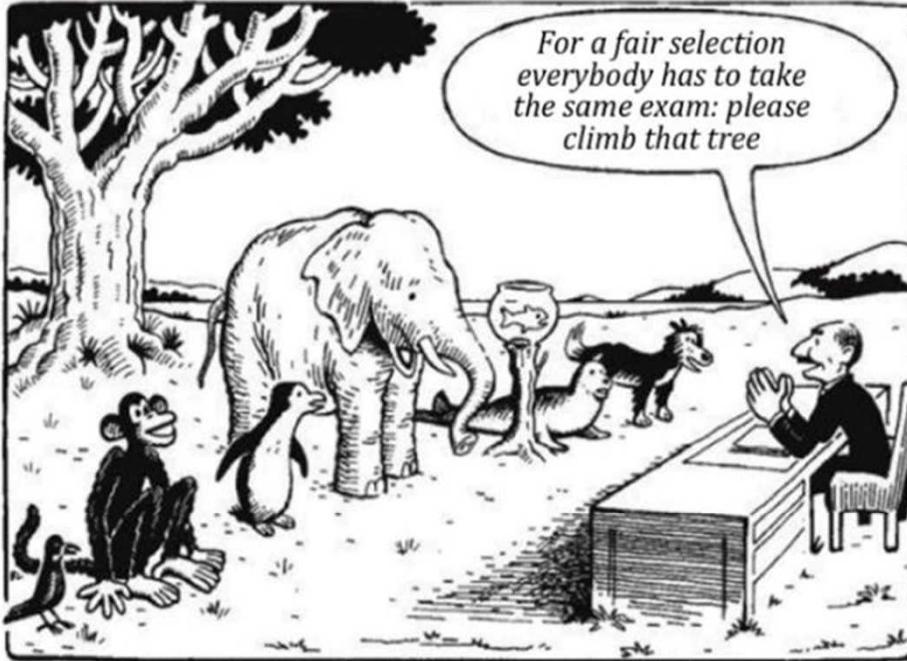
- ① **大学が実施する学力評価** (小論文、プレゼン、口頭試問、実技、学力試験、資格・検定試験など) または「大学入学共通テスト」の活用
- ② 調査書、推薦書に「学力の3要素」の評価を記載

## 一般選抜

- ① **志願者提出書類** (志望理由書、活動報告書など) や調査書の活用
- ② 大学共通テストの活用
- ③ 個別学力試験では高度な記述式問題を出題
- ④ 英語4技能の評価

多面的・総合的評価

現実  
は試験の  
点数のみ



## Our Education System

**日本の大学入試**  
*"Everybody is a genius. But if you judge a fish by its ability to climb a tree, it will live its whole life believing that it is stupid."*

- Albert Einstein

<http://2.bp.blogspot.com/-mfUfd3yHAFI/VbwefKsftYI/AAAAAAAAABr8/SWFDqnOa10A/s1600/failure%2Bof%2Belephants%2Bmonkey%2Bin%2Ba%2Btest.jpg>

# 「大学入試のあり方に関する検討会議」提言

## 第5章 ウィズコロナ・ポストコロナ時代の大学入学者選抜①

### 1. 令和6年度実施の大学入学者選抜に向けて

- (1) 第1回大学入学共通テストの実施状況
  - ✓暗記した知識を引き出すだけでなく、様々な資料や実社会で用いるようなデータを読み解いたり、与えられた情報を基に考察したりする問題が一定程度出題されたとの評価。
  - ✓各大学のアドミッション・ポリシーに照らし、足らざる部分については個別試験における対応が必要
- (2) 大学入学共通テストの科目構成等の見直し（新教育課程への対応等）
  - ✓「公共」「情報Ⅰ」の新設等に伴う見直し    ✓継続的で安定的な実施等の観点から、科目を再編（6教科30科目→7教科21科目）
  - ※共通テストはPBTで、「情報」は、問題の発見・解決に向けて情報技術を活用する力を見る出題の工夫を期待。大学の入学者受入れ方針に基づく活用を推進
- (3) 入学後の教育に必要な入試科目の設定の推進
  - 定期的な実態調査の実施・公表等を通じて共通テストの活用や個別試験で適切に出題
  - 参考）商学・経済学部 個別試験で数学を全く課さない選抜区分：22%

### 2. 秋季入学等の学事暦・修学年限の多様化・柔軟化に対応した大学入学者選抜のあり方

- ✓学事暦、修学年限の多様化・柔軟化と共に入学者選抜方法のあり方の検討も必要
- ✓秋季入学への対応は、総合型・学校推薦型選抜など一般選抜とは異なる選抜基準・方法で選抜する方向が適当。その具体的方法や定員のあり方等について、更に専門的な検討が必要

### 3. 総合型選抜・学校推薦型選抜の推進

- (1) 求める人材の特性に応じた総合型選抜・学校推薦型選抜の推進
  - ✓AO入試・推薦入試の入学者数に占める割合は学科系統によって差
    - 例 医学24.1% 理学28.0% 歯学29.1% 芸術60.8% 家政63.0%
  - ✓総合型選抜・学校推薦型選抜の意義（1章4.）を踏まえ、実施率が低い分野や人材育成上の必要性がある分野においては、**学力の担保、選抜基準の明確化**を図った上で推進を期待
  - ✓アドミッションオフィスの役割・機能強化、アドミッションオフィサーの育成支援に関する調査研究、専門職団体等との連携
- (2) 総合型選抜・学校推薦型選抜における学力の適切な把握
  - 例）レポート・小論文作成、口頭試問、資格・検定試験の活用 等

大学が「獲りたい学生」の確保が可能

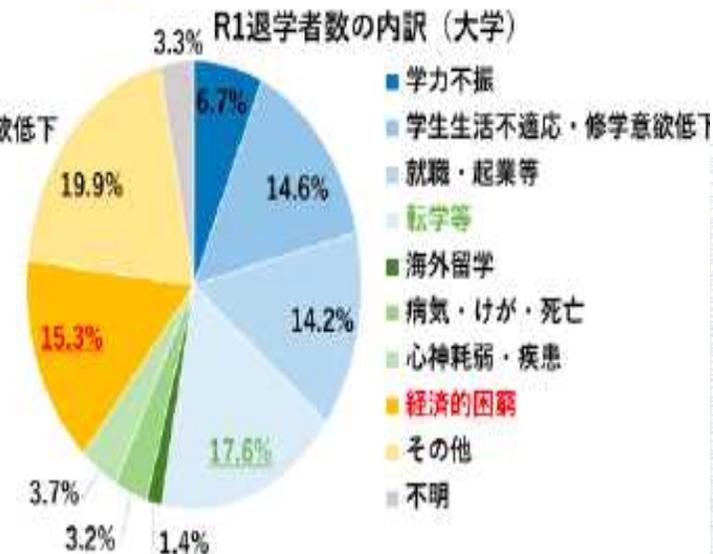
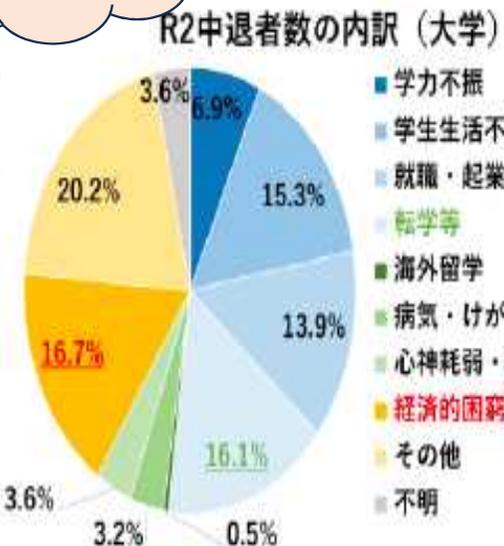
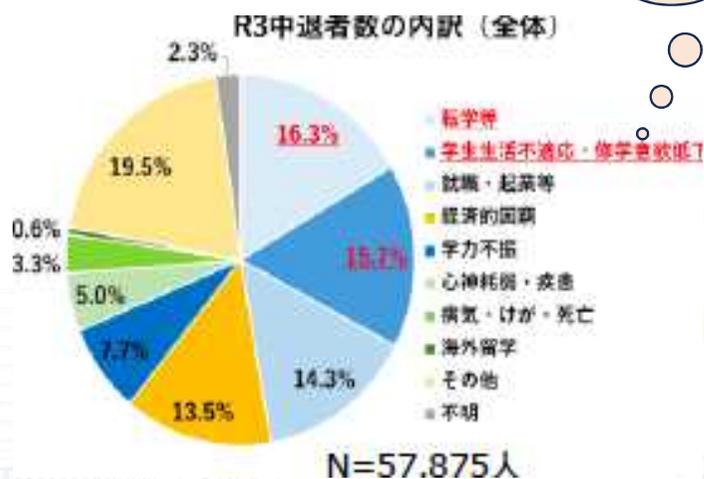
# 多面的・総合的評価の特徴

～志願者にも大学にもメリットがある選考方法～

# 大学に入学したけれど . . .

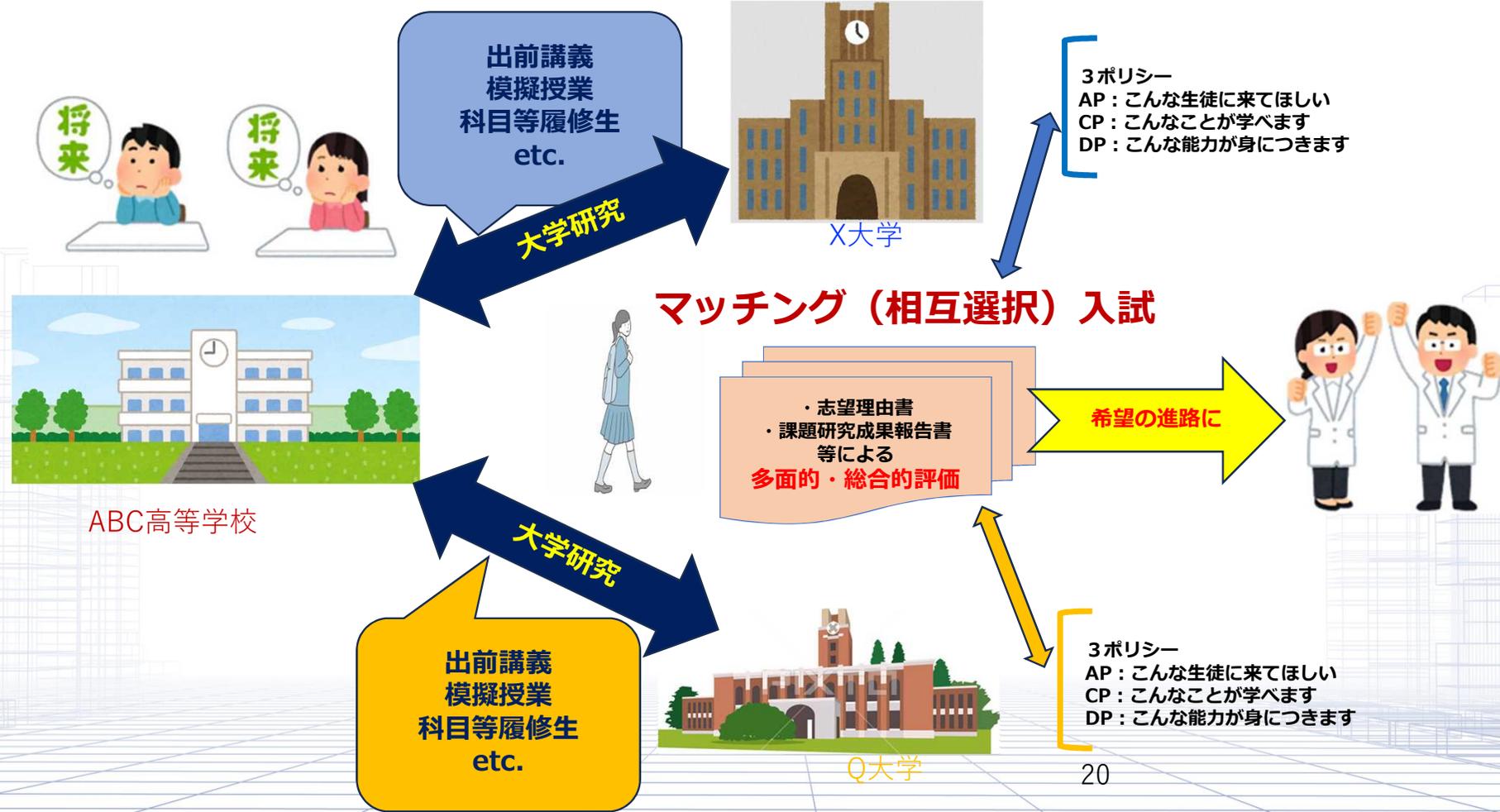
令和3年度の中退者は、**57,875人**（全学生の**1.95%**）

ミスマッチ  
が原因！



文部科学省「学生の修学状況（中退者・休学者）等に関する調査」（令和3年度末時点）

# 「入れる大学・学部」から「入りたい大学・学部」に進学 「獲れる学生」から「獲りたい学生」入試への転換

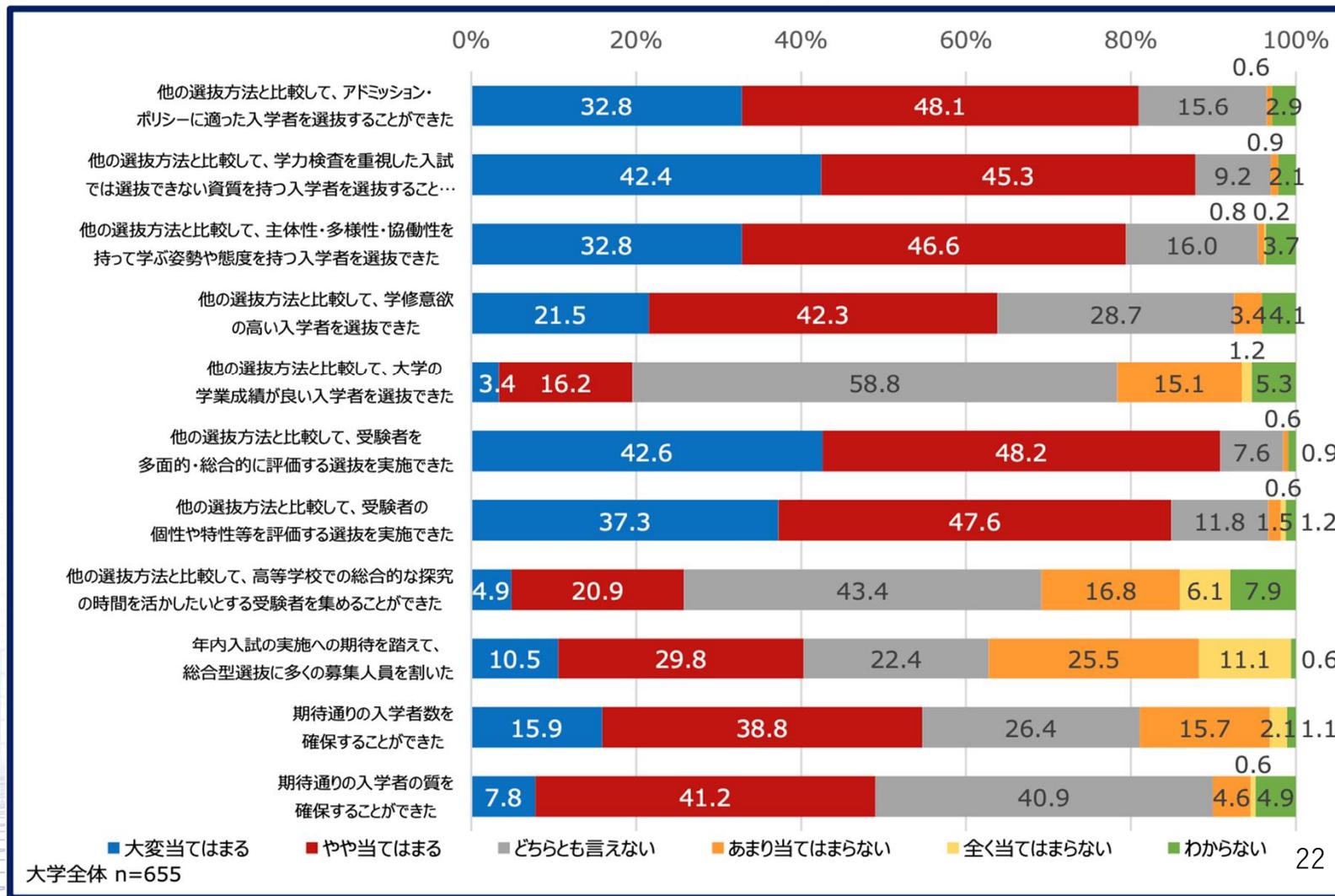


- ✓受験者を多面的・総合的に評価する選抜ができた
- ✓学力検査を重視した入試では選抜できない資質を持つ入学者を選抜することができた
- ✓受験者の個性や特性等を評価する選抜ができた
- ✓アドミッション・ポリシーに適った選抜ができた
- ✓主体性・多様性・協働性を持って学ぶ姿勢や態度を持つ入学者を選抜できた

.....

- ✓期待通りの入学者数を確保できた

図 12 「総合型選抜」導入効果(大学)



令和5年度 文部科学省先導的  
大学改革推進委託事業  
「大学入学者選抜における  
総合型選抜の導入効果に関  
する調査研究 報告書」  
イノベーション・デザイン&  
テクノロジーズ(株)  
令和6年3月

# 2021年度入試からの個別入試 (全ての選抜方式で多面的・総合的評価を！)

## 総合型選抜

- ① **大学が実施する学力評価** (小論文、プレゼン、口頭試問、実技、学力試験、資格・検定試験など) または「大学入学共通テスト」の活用
- ② **志願者提出書類** (志望理由書、活動報告書など)

## 学校推薦型選抜

- ① **大学が実施する学力評価** (小論文、プレゼン、口頭試問、実技、学力試験、資格・検定試験など) または「大学入学共通テスト」の活用
- ② 調査書、推薦書に「学力の3要素」の評価を記載

## 一般選抜

- ① **志願者提出書類** (志望理由書、活動報告書など) や調査書の活用
- ② 大学共通テストの活用
- ③ 個別学力試験では高度な記述式問題を出題
- ④ 英語4技能の評価

多面的・総合的評価

現実  
は試験の  
点数のみ

# 多面的・総合的評価の課題

～課題の解決は余り進んでいない～

## ○2021年度報告

- ✓思考力・判断力・表現力の適正な評価法の設定
- ✓主体性・多様性・協働性の適正な評価法の設定
- ✓調査書の活用方法
- ✓志願者本人記載資料等の活用方法
- ✓各評価方法の点数配分が難しい
- ✓入学者選抜に関わる人材が不足している

## ○2023年報告

- ✓評価方法の困難さ
- ✓マンパワー不足

## ○2024年度報告

- ✓評価する観点の設定が難しい
- ✓選抜に係る業務時間の負担が大きい
- ✓評価結果の点数化が難しい
- ✓十分な実施体制を整えるのが難しい
- ✓選抜の実施に専門的な知識が要求される
- ✓公平性を確保するための体制や手段の確立が難しい
- ✓合否判定が難しい
- ✓受験生や高校に対し合否の判定に関する説明が難しい

図 2-135 2-6-3 2021 年度入学者選抜に向けての課題（複数回答）（n=964）

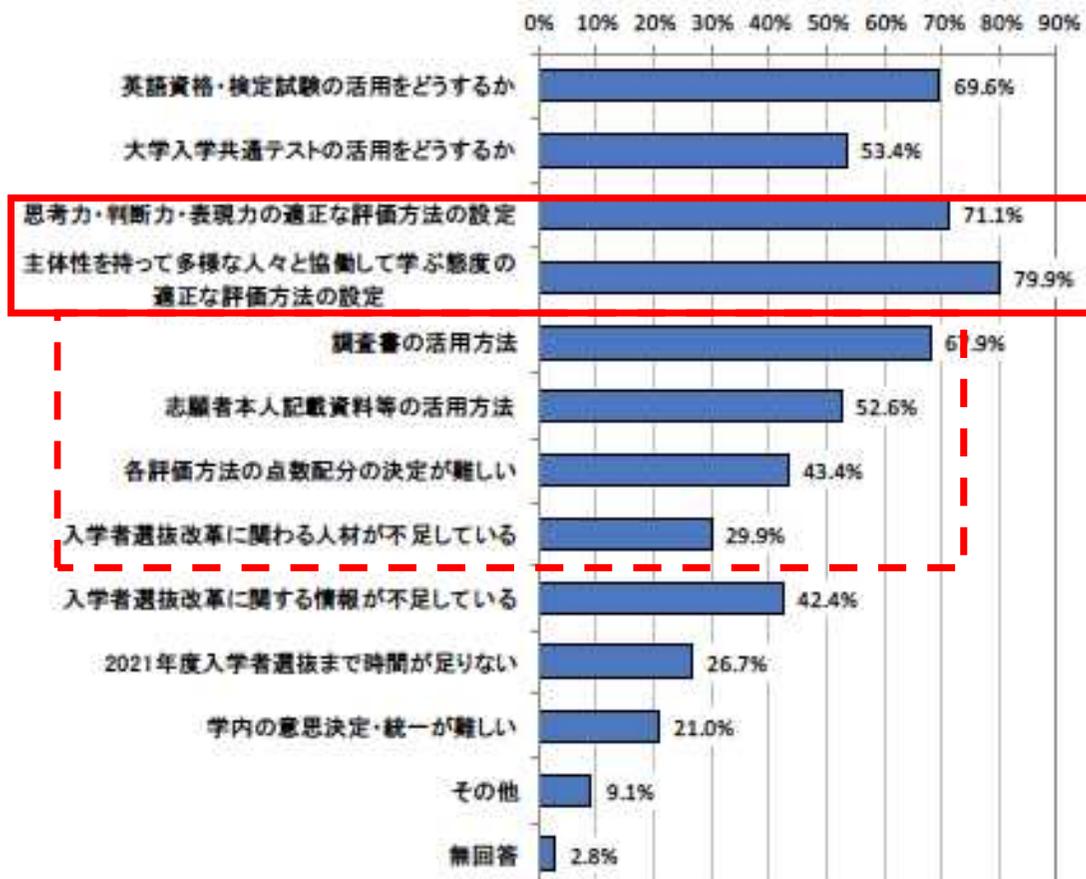


表4 多面的・総合的評価を実施する上で課題と感じていること（自由記述）

項目	個数	類型	記述内容
評価手法	5	総複	評価基準の作成、評価担当者の質向上
		総複	高校側が提出する資料個々の評価が難しい
		単科	評価を点数化して、得点順に合否を判定すること
		総複	評価基準と公平性
		総複	公平・公正性の担保
マンパワー (専門人材含む)	3	総複	入試期間における時間的問題、マンパワー
		総複	マンパワーの不足
		単科	専門人材の不足
学内組織・体制	1	単科	学内体制
その他	1	総複	今年度は、英語認定試験をはじめ様々な変更があり、「多面的・総合的評価」を誰も口にしなくなり、宙に浮いた状態であるのが課題

回答大学7大学

京都大学大学院教育学研究科紀要 第69号 2023

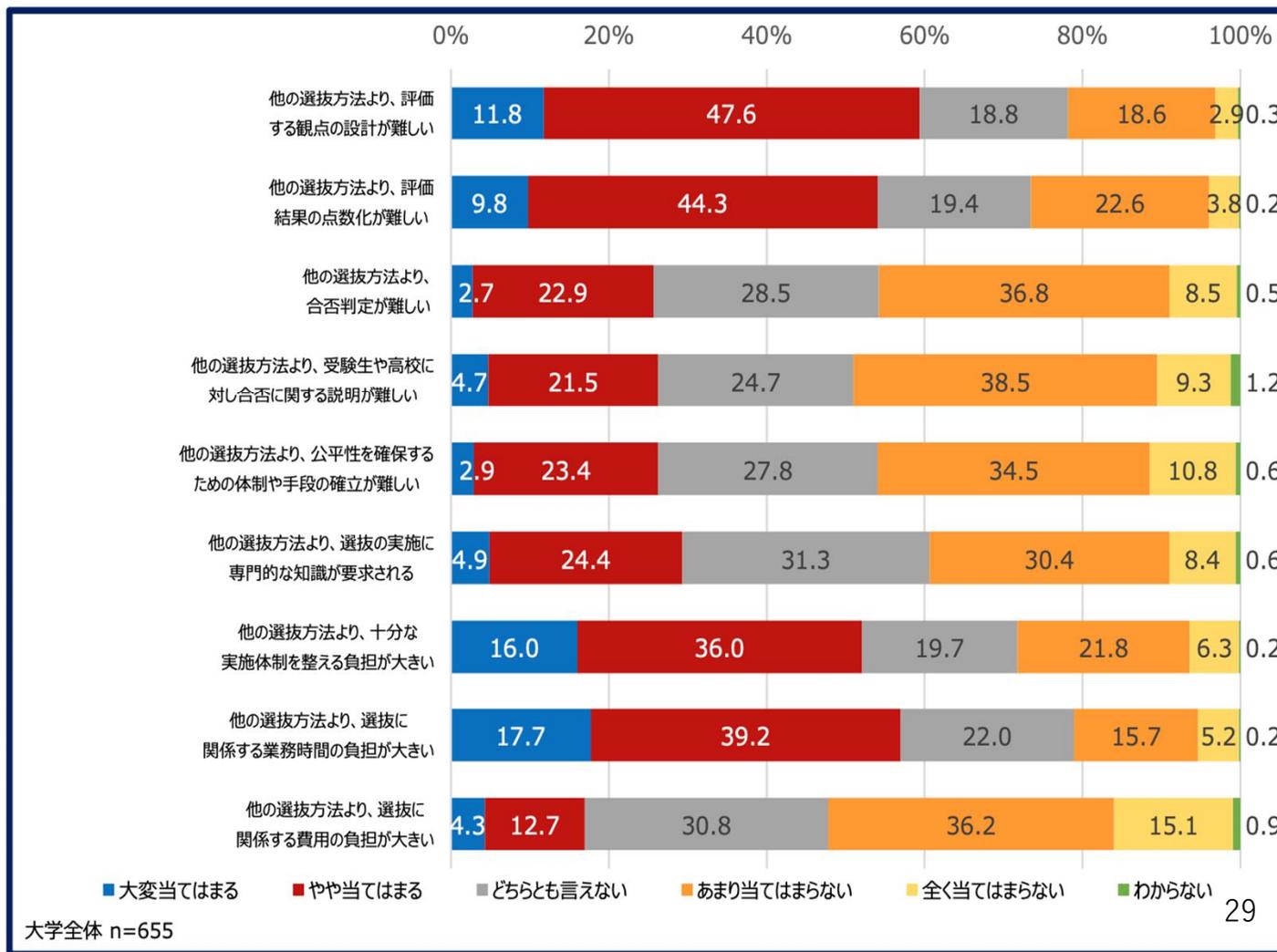
大学入学者選抜における多面的・総合的評価の実施上の課題  
—専門的組織・専門人材の整備・活用に関する国立大学の状況に着目して—

大野 真理子

\*京都大学大学院教育学研究科紀要 第69号 2023 P226



図 14 「総合型選抜」導入課題(大学)



令和5年度 文部科学省先導的  
大学改革推進委託事業  
「大学入学者選抜における  
総合型選抜の導入効果に関  
する調査研究 報告書」  
イノベーション・デザイン&  
テクノロジーズ (株)  
令和6年3月

表5 多面的・総合的評価を実施する上であると望ましい支援（自由記述）

項目	個数	類型	記述内容
評価手法	6	総複	評価方針の明確化
		総複	他大学の事例共有、評価方法
		単科	「多面的・総合的評価」の具体的な例示
		総複	評価担当者による評価の違いを校正できるシステム
		単科	「多面的・総合的評価」を行うため、評価者研修や指標などが示されるとよい
		総複	多面的・総合的評価における高等学校調査書の適切な活用方法に関する情報提供
マンパワー (専門人材含む)	5	総複	入試における評価期間を十分にとる、マンパワー、情報
		総複	入試が複雑になるのでマンパワーが必須
		総複	専門教員、専門職員の配置
		総複	財政的、人的支援も含みます
		単科	人材配置
学内組織・体制	3	総複	入試課をはじめ学内に新しい取り組みを遂げる風土がある。支援を言えば、それではだめだという執行部のリーダーシップ
		総複	然るべき学内機関を経て、可能な限り全学的な方針として取り組むべく、調整する
		総複	専門性を持ったアドミッション・センターと執行部、学部の理解です
ICT等の活用	3	総複	大学入試のICT化(受験者や高校に関する情報、出願情報、成績情報等を効率的に活用できるシステムの導入など)
		総複	多面的評価を行う上での、評価を入力しやすいシステムと、K係数、偏り性等のデータの自動生成
		総複	AIを活用した調査書の評価分析支援システムなど
その他	4	総複	ルーブリック作成研修、書類審査の方法研修、面接研修などの研修
		総複	何かあれば身いのだが、業者が絡むと流儀に商業色が強まるので使い物にならない
		総複	いかにスムーズに、効率的に実施するかがポイントのひとつだと考えています。その点についての支援が必要だと思います
		単科	わからない

文部科学省  
「大学入試情報提供サイト」  
<https://www.mext.go.jp/nyushi/index.htm#r3koujirei>  
「大学入学者選抜における好事例集」

回答大学18大学

## <見える能力の評価(Science)>

調査書（評定、評定平均）

大学入学共通テスト得点

個別学力試験得点

英語4技能検定・資格試験成績

数字を読む



客観的

## <見えにくい資質等の評価(Art)>

志望理由書

活動報告書

推薦書

調査書（所見欄）

面接

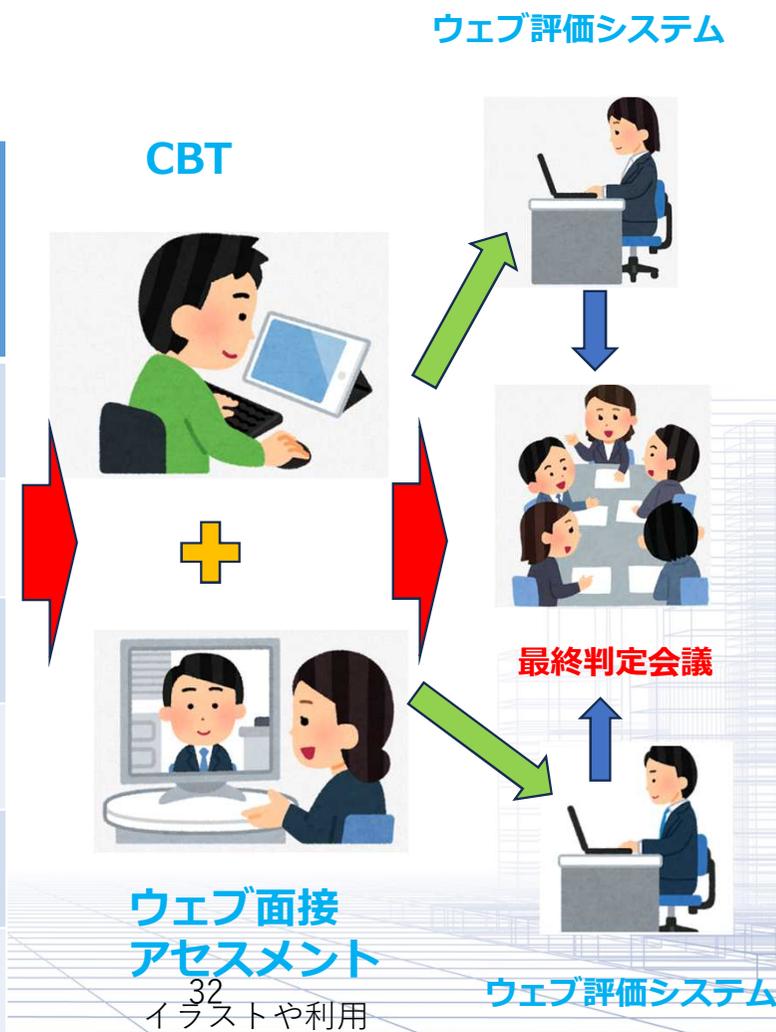
声を聴く



主観的

## 入試のDX化が不可欠

求める人材像に示す学習成果（学力の3要素）	評価対象となる学習成果のエビデンス	学習成果の評価方法	評価の重み付け
基礎学力	大学入学共通テスト	素点/5段階	50%
思考力・判断力・表現力	小論文	ルーブリック	20%
主体性	志望理由書	ルーブリック	5%
主体性	活動報告書	ルーブリック	5%
主体性・協働性	集団面接	ルーブリック	10%
基礎学力	調査書	評定平均値×10	10%



# 多面的・総合的評価とCBT： 検討の経緯、現状、課題、可能性

## 4. 共通テストにおけるCBTの活用に関する提言

教育再生実行会議第四次提言（平成25年）以降、  
高大接続改革の議論と並行して共通テストへのCBTの導入に  
ついて各所から提言

### 教育再生実行会議第四次提言（H25.10.31）

- （達成度テスト（発展レベル）（仮称）について）  
…将来的には、試験問題データを蓄積しCBT方式で実施することも検討。

### 中央教育審議会答申（H26.12.22）

「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、  
大学入学者選抜の一体的改革について」

- ◆ C B T方式での実施を前提に、出題・解答方式の開発や、実施回数の検討等を行う。

### 未来投資戦略2018（H30.6.15）

大学入学共通テストにおいて、平成36年度から必履修科目「情報Ⅰ」などの新学習指導要領  
に対応した出題科目とすることについて本年度中に検討を開始し、早期に方向性を示すとともに、  
コンピュータ上で実施する試験（CBT）などの試験の実施方法等について検討を進める。

## 5. 大学入試センターにおける調査研究

- 大学入試センターでは、平成23年以降、教育工学やテスト理論等の専門家によりCBTに関する調査研究を実施。
- 平成28年度以降は、文部科学省の補助事業として、より多様な専門家の協力を得ながら、令和7年試験からのCBTを活用した「情報I」出題について検討。

### ・プログラミング等の出題を実現するCBTシステムの研究

（「CBTでの「情報I」の出題に関する調査研究について（報告）」（令和4年6月））

### ・IRTを前提とした問題作成・管理に関するシステムの研究

（「大規模入学者選抜におけるCBT活用の可能性について（報告）」（令和3年3月）、  
「CBTでの「情報I」の出題に関する調査研究について（報告）」（令和4年6月））

### ・個別大学の入学者選抜におけるCBTの活用実態の研究

（個別大学の入学者選抜におけるCBTの活用事例集（令和4年6月））

## 5. 大学入試センターにおける調査研究

### しかし、共通テストでのCBTの活用については…

- 大学入学者選抜、とりわけ共通テストでは、単なる学力試験・調査等をはるかに超える実施水準が求められる。
- …CBTで実施した場合のメリットは大きいが、現行の共通テストをCBTで行うこと、更にはIRTに基づいて行うためには、…数々の課題を高いレベルで克服する必要がある。

○具体的には、

- 全国的に均質で質の高い受験環境（パソコンやネットワーク等）の確保
- トラブルが生じた場合の対応体制の構築
- 新しい試験の在り方に対する受験者や保護者を含む社会全体の理解

などについて、細やかな検討が必要と言える。

➡ 「国内外の最新の動向を踏まえつつ、引き続き調査研究に取り組んでいくことが重要」

## 6. センターの取組（調査研究、各機関等との連携・協力）

これまでの成果を、学会等で積極的に周知していくとともに、国内外の最新の動向も踏まえつつ、各大学の入学者選抜に生かしていくため、引き続き調査研究や各機関等との連携・協力に取り組む。

- 技術標準規格に関する国内機関との協働による調査研究
- 国際的なコンソーシアム(1EdTech Consortium)への参加を通じた技術標準の情報収集
- 個別大学の入学者選抜でCBTを活用する大学への知見の提供

など

各大学の入学者選抜や、様々な場面でCBTによる試験が実施されることにより、CBTが安定的な試験方法として我が国に根つき、**社会全体の理解が進めば、将来的な大規模試験のCBT化に向けた課題の克服**に資することも期待。

小さく産んで  
大きく育てる

# まとめ（に代えて）

# 私見ですが・・・（言い続けていること）

・「個別（筆記）試験」必要ですか？（志願先大学で受験するのは世界的には「ガラパゴス」現象） **そして「総合評価」に**

・ 共通のオンライン出願システムを作りませんか？  **大学入学共通テストがウェブ出願に！**

・ 共通テストを一層充実させ、より活用しやすくしませんか（複数回実施）？

 **CBTの導入で「基礎レベル」は複数回実施可能に？**

・ 「入学者受入方針」と「入学定員」の存在は矛盾していませんか？

⇒ 「**受入Admission**」方針を満たせば合格させるのが基本では・・・

入学定員があるから、受入方針を満たさなくても入学させなければならない

入学定員があるから、受入方針を満たしても入学させられない **「入学者受入方針」って何？**

これから急激に18歳人口が減りますが・・・

**「入学定員」の意味は？**

 **大学全入時代には相互選択型入試が可能**

・ もう一度、秋入学を「真剣」に検討しませんか？



ご質問、ご意見は↓

[kawashima.slics@osaka-u.ac.jp](mailto:kawashima.slics@osaka-u.ac.jp)